NIE実践報告

1．タイトル：ひたすら写す。ひたすら解く。シンプルにコラム活用

2．学校名

熊本県尚絅高等学校

3．実践者名（代表者名）

増井　洋介

4．学年

第3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

週末課題　232人

6．単元（本時の学習課題）名

コラム録

7．目標（狙い）

①普通コース―コラム書写を通じ、現代社会の諸問題を大まかに理解させ、基礎的な文章作法を習得させる。
②特進コース―コラムを題材に、要約と現代文型ワークに取り組ませ、時事問題理解+αの力をつけさせる。

8．評価の視点

学年の「週末課題」なので、生徒たちの学習成績等に反映するような評価は行っていない。生徒の提出した課題に担任がコメントをつけて返却したり、提出状況の良くない生徒に者に対し助言指導などを行った。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

年間を通して同じ形式の取り組みを行った(下参照)ので「単元」の感覚はなく、年度中の位置づけや時数についてもお答えすることはない。定期考査直前と長期休暇中を除き、毎週行った。

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

１．学年集会でオリエンテーション実施(08年4月14日)
２．全クラスで開始(08年4月18日)
〈具体的方法〉
①学年の担当者(増井)が、週の半ばに次週提出分の「コラム録」原稿を用意する。
②1回のコラム録に掲載するコラムは、出典と日付を明示し5つ。うち1つは地元紙「熊本日日新聞」が地元の話題を取り上げたもの、1つは全国各地の地方紙が地域の話題を取り上げたもの、残りの3つは、朝日・毎日・読売・日経などの全国紙のコラムから、内容を見比べて選んだ。　※ネット掲載分を利用
③学年の他の担当者が次週提出分の「コラム録」と専用の原稿用紙(感想欄有　特進はワークシート)を学年の生徒数印刷し、クラス終礼を利用して各担任が生徒たちにこの２種類のプリントを配布する。
④週明けのクラス朝礼時に、生徒たちが5コラム中1つを選び書写(特進はワーク完成)した用紙を担任が集め、丁寧さ、内容の把握等を確認後、押印したりコメントを書くなどして、生徒に返却する。
３．全27回(コラム数135)で終了(09年1月15日)

11．児童・生徒の反応、感想・意見

開始当初、生徒たちは比較的熱心に取り組んでいた。年度半ばで中だるみも見られ、提出率が低下するクラスもあったが、後半は復調した。生徒たちの全体的な感想を一言で言えば「ちょっと面倒くさい」だろう。その割りには、自分が書く以外のコラムも読んでいた。また「面接や小論文受験に役立った」との声も聞かれた。

12．成果と課題

生徒たちが時事的問題に対し、従来(本校比)より理解の範囲を広げ、関心を持つようになったと感じた。また、書写の丁寧さまで細かく指導するクラスにおいては「硬筆」練習的な効果もあがった。更に、地元紙(熊本日日新聞)のシェアが圧倒的に高い本県にあって、全国紙や他県の地方紙からコラムを引用したことで、生徒たちも空間的な広がりを体感できたろうし、一部の生徒は各紙の論調の差異についても話題にしていた。
課題としては、1ステップ工夫を加えることで、生徒たちがもっと読解力を養成できる活動に出来れば良かったか。ただ、シンプルさがこの取り組みが続いた一つのポイントなので、欲は禁物かもしれない。